

長鯨丸（ちょうげいまる）は、明治3年、亶理からの第1回移民団250名を乗せ、新天地を目指して船出しました。

# 長鯨丸

伊達市立東小学校  
コミュニティスクール通信  
第2号  
令和4年12月16日  
発行



## 12月8日(木)第2回学校運営協議会を開催

### ◆◆協議内容（司会 堤 協議会会長）◆◆

- (1) 地域ボランティア
- (2) 令和5年度 防災教育
- (3) 働き方改革
- (4) 全国学力・学習状況調査
- (5) 伊達市体力テスト
- (6) いじめ・不登校の実態
- (7) 姉妹校亶理小学校との交流
- (8) 150周年式典
- (9) 授業参観での感想
- (10) 「東小の教育」に関する学校運営協議会アンケート
- (11) その他 運営協議会委員からのご提案・意見・質問等

この日は参観日で、4,6年生の学習の様子も観ていただきました。

### 【ご紹介】

学校運営協議会委員新メンバー  
本校 PTA 副会長 西崎 里美 様



### 【協議より】

#### (1) 地域ボランティア

##### ○地域人材について

- ・東地区の民生委員（昔の遊び）
- ・黄金小学校校区（生け花）
- ・堤会長（畑の先生）  
※要望あれば5,6人に呼びかけが可能
- ・黄金地区穴戸さん  
※菊の栽培～黄金小で一人一人行っていた。
- ・東小PTA学級委員（読み聞かせ）  
※3学期からでも再開したい

##### ○統合による黄金、稀府地区の子ども会活動の影響について

- ・稀府に大きな集会所がない。統合前は稀府小学校を使っていた。学校が使えなくなり、集まりができなくなった。
- ・達南中学校が使えないか。
- ・黄金ははまなす館がある。黄金でやる集会などに稀府が参加というのはどうか。
- ・黄金、稀府でやるときお互いに参加ができればよい。
- ・冬休みの集会情報などがあれば、学校だよりも周知していきたい。

#### (2) 令和5年度 防災教育

- ・令和5年9月6日に、地域や保護者も参加できる全校避難訓練を考えている。
- ・東小（海拔26M）でも避難は必要か。  
→子どもたちがどこにいても命を守れる行動を身に付けられるよう避難訓練を行う。

#### (3) 働き方改革

- ・電話対応時間の取組はどのような状況か。  
→学校だよりで周知した後、7:30～17:30の時間帯で概ね理解が得られている。

#### (4) 全国学力・学習状況調査

- ・子どもたちが授業に集中し、落ち着いて取り組んでいる。
- ・4年生の国語ではタブレットで他の子の作品を見たり、6年生の算数でもタブレットを使いながら問題を考えたりしていた。感心するばかり。我々の時代からは考えられない。
- ・教えている先生方も（タブレットを活用した授業に）よく対応している。
- ・全校で弱いところは同じなのか。  
→12月に伊達市学力テストがあり、その結果を踏まえて授業改善に取り組む。

### (5) 伊達市体力テスト

- ・今年度、年間通して取り組んできたなわとの効果について、来年度検証したい。
- ・なわとびはどのように取り組ませているのか。→個人でも団体でも行っている。
- ・休み時間はどのくらいあるのか。  
→中休み・昼休みが各20分間、授業の合間は5分間
- ・休み時間、子どもたちはどのような遊びをしているのか。動かない子どもも多いのではないか。体力向上については、おにごっこのような遊びをたくさんやるとよい。

### (6) いじめ・不登校の実態

- ・学校では指導していると思うが、6月と11月で数が増えているのはなぜか。  
→いじめ認知の増加はよいと考えている。  
いじめの定義への理解に時間がかかることもあるが、どんどん認知していきたい。
- 数が増えているのは、子どもたちが正直に答えているということではないか。
- ・保護者が解決を望んでいない「相手に言っ  
てほしくない」という事例もある。
- ・子どもが一番犠牲になる。そこを理解できない保護者が増えているのではないか。
- ・いじめの内容として、どのようなパターンが多いのか。  
→同性のパターンが多い。された側が言わないこともある。
- ・「首しめ」とあるが、命にかかわる問題につながることもある。  
→「一回きり」「じゃれあいだから」ではなく、「いじめだ」と言って教えてあげないといけない。

### (7) 姉妹校亘理小学校との交流

- ・承認

### (8) 150周年式典

- ・承認

### (9) 授業参観での感想 ※(4)にて

### (10)「東小の教育」に関する学校運営協議会アンケートを実施

### (11) その他 運営協議会委員からのご提案・意見・質問等

- いじめ未然防止といじめ見逃しゼロの取組の強化を。全国的にいじめ、不登校等の児童生徒が多くなっている現状の中で、このような状態が少しでも落ち着いていくことを願っている。そのために大切な事は、共感的人間関係を育てる（認め合う・助け合う・高め合う）学級集団の育成や、教科指導や学校行事等において、自己決定の場を多く設定したり、自己存在感（成就感・満足感）を持たせる意図的な工夫の設定を図ることも大切だと思っている。何よりも大切な事は、教師間の統一した指導と連帯感であり、管理職として、教職員の意思を統一して、お互いに苦勞をいとわない一枚岩の集団にまとめることだと思う。大変だろうが頑張ってもらいたい。
- （いじめアンケートについて）アンケートの設問の多くはどちらかといえば、いじめを受けた子が答える設問の仕方になっている。この場合、いじめをした子は  
どう回答するのか。いじめをする、される双方の立場で回答できるような設問の仕方は難しいのだろうか。いじめをした時、本気だった・遊び半分・いたずら・ふざけて等本人の心の中が少しでも垣間見られればと思う。
- 家庭学習の充実が学力を左右することになり、重要であると思う。それ以上にやはり毎日の授業の充実が大切と思う。先生方も忙しく授業の準備時間もとれない中だが、「目標の明確化」「目標が達成されたかのチェック」「一人一人に合った指導法」等の研究を更に深めて頂きたい。
- ・体力づくりは「なわとび」に特化し取り組んでいる事はとてもよいと思う。実践されていると思うが、「子どものやる気・意欲の醸成」「級別の目標達成カード」etcの取組を期待している。